

令和6年6月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が5月下旬～6月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、2ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	いもち病 (葉いもち)	並	発病株率：並【0.00%/0.03%】 気象予報：降水量並	17
	紋枯病	並	発病株率：並【0.00%/0.00%】 前年8月下旬発病株率：並【5.51%/6.83%】 気象予報：気温高(+)	19
	スクミリングガイ(ジャンボタニシ)	やや多	被害株率：多【5.03%/1.53%】(+) 1㎡当たり貝数：やや多【0.44頭/0.28頭】(+)	19
	イネクロカメムシ	並	5月予察灯誘殺数：やや少【17.1頭/27.5頭】(-) 成幼虫寄生株率：並【0.06%/0.14%】 気象予報：気温高(+)	-
	ヒメトビウンカ	やや多	5月予察灯誘殺数：多【0.6頭/0.1頭】(+) 20回振りすくい取り成幼虫数：やや多【0.99頭/0.54頭】(+) 気象予報：気温高(+)	21
	セジロウンカ	多	5月予察灯誘殺数：並【0.0頭/0.0頭】 成幼虫寄生株率：並【0.00頭/0.00頭】 20回振りすくい取り成幼虫数：多【0.14頭/0.00頭】(+) 気象予報：気温高(+)	20
スイカ	うどんこ病	やや多	発病葉率：やや多【7.20%/3.24%】(+) 気象予報：降水量並 日照時間並	-
	アブラムシ類	並	寄生葉率：並【4.60%/5.48%】 気象予報：気温高(+) 降水量並	41
	ハダニ類	並	寄生葉率：並【5.00%/4.86%】 気象予報：気温高(+) 降水量並	-

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
サトイモ	アブラムシ類	並	成幼虫寄生葉率：やや少【30.40%/33.17%】（－） 気象予報：気温高（＋）	42
	ハダニ類	多	成虫寄生葉率：多【16.53%/10.45%】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並	-
イモ	ハスモンヨトウ	やや多	幼虫寄生株率：並【0.00頭/0.00頭】 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多【2.88頭/2.03頭】（＋） 気象予報：気温高（＋）	46
ナシ	黒星病	並	発病葉率：並【1.06%/1.02%】 発病果率：並【1.06%/0.79%】 気象予報：降水量並	24
	シンクイムシ類	多	被害果率：並【0.00%/0.00%】 5月フェロモントラップ誘殺数：多【1.65頭/0.62頭】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並	25
	ハマキムシ類	やや多	被害葉率：並【0.03%/0.06%】 被害果率：多【0.03%/0.00%】（＋） 5月フェロモントラップ誘殺数：並【1.88頭/2.16頭】 気象予報：気温高（＋）降水量並	26
	アブラムシ類	並	寄生新梢率：やや少【0.24%/3.66%】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並	24
温州ミカン	そうか病	多	発病葉率：多【3.40%/0.68%】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並	26
	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【9.80%/5.04%】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並	28
ビワ	灰斑病	並	発病葉率：やや少【0.50%/2.28%】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並	-
果樹共通	カメムシ類	多	5月フェロモントラップ誘殺数：多【9.18頭/4.41頭】（＋） 5月予察灯誘殺数：やや少【5.8頭/17.2頭】（－） 気象予報：気温高（＋）	28

* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) イネカメムシ（イネ）
令和6年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」も参照。
- (2) 黒星病（ナシ）
令和4年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。
- (3) カメムシ類（果樹共通）
令和6年度病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）越冬後成虫多発生のおそれ」も参照。



II これから注意を要する病害虫

ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウ（写真）は極めて広食性の害虫で、多発するとほとんどの野菜類、花き類や果樹にまで被害を及ぼす。野菜ではネギ、ニンジン、トマト、ダイコン、キャベツ、イチゴ、サトイモ、ヤマノイモ、ナス、ハクサイ、ピーマン等での加害が普遍的に見られる。

卵は雌成虫の鱗毛で覆われた状態で、葉裏に卵塊で産み付けられる。ふ化直後の幼虫は、産卵場所付近を集団でカスリ状に食害する（写真1）。3齢幼虫以降は分散し、食害量も増加するので穴あきの被害となる（写真2）。

県内12地点で実施しているフェロモントラップ調査における誘殺数が、本年は平年より多く推移している（図）。気象庁の3か月予報（5月21日発表）によると、関東甲信地方の6～8月の平均気温は高い確率60%と予想されていることから、ハスモンヨトウの発生に好適な環境が維持されると予測され、野菜類を中心に被害が多くなる恐れがある。



写真1 ふ化直後の幼虫による食害（カスリ状）

写真2 中齢幼虫による食害（穴あき）

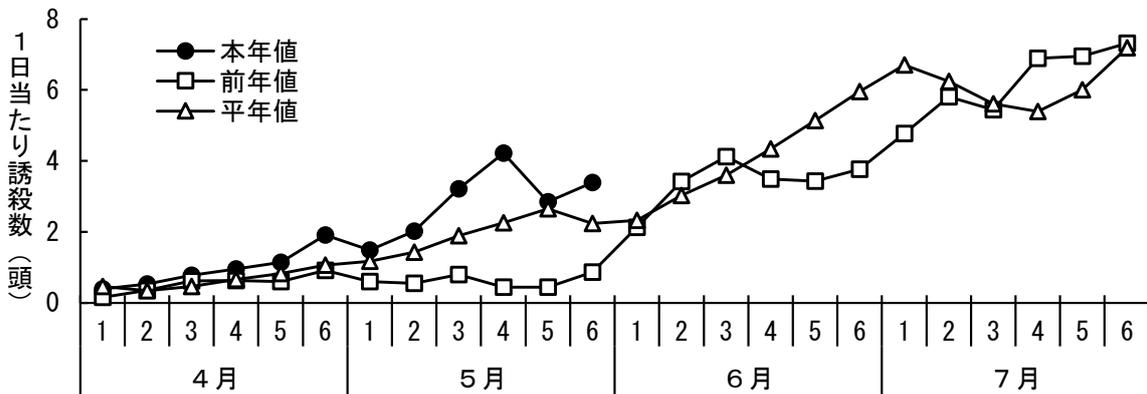


図 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移（4～7月、半旬毎）

注）県内12地点の平均値

<防除対策>

- (1) ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- (2) 成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾灯（黄色灯）の夜間点灯を行う。
- (3) ほ場をよく観察し、卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- (4) 中齢幼虫（写真2）以降になると薬剤の防除効果が著しく低下するため、発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。

ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイは、ナシをはじめ、ウメ、モモなど多くの果樹に被害を及ぼすチョウ目の害虫であり、特にナシでは幼虫が主に果実内を食害し、被害を与える。

県内4か所のナシ園に設置しているフェロモントラップの誘殺数は、4月に平年を大きく上回り推移し、5月下旬頃にも平年値の2倍以上となった(図)。

また、気象庁の3か月予報(5月21日発表)によると、関東甲信地方の6~8月の平均気温は高い確率60%と予想されていることから、今後も本虫は高い密度で推移する可能性がある。

7月頃から収穫期にかけては幼虫がナシなどの果実を食害するため、注意が必要である。

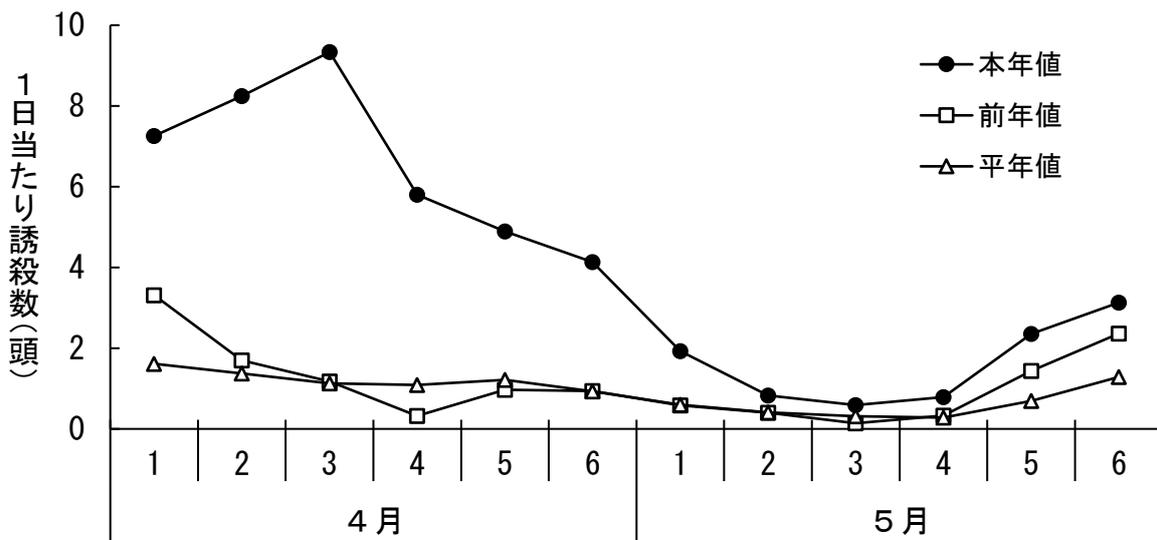


図 フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ誘殺数の推移(4~5月、半旬毎)

注) 県内4地点の平均

<生態と被害>

ナシをはじめ、ウメ、モモなど多くの果樹に被害を及ぼす。

老齢幼虫がナシやモモなどの枝幹の粗皮の割れ目などに繭を作って越冬する。越冬幼虫は3月頃に蛹化、4月頃に成虫が発生し始め、ウメやモモ、サクラなどに産卵する。

ふ化した幼虫が、5月頃から主にウメ、モモ、サクラなどの新梢を加害し、芯折れなどの被害を発生させる。これらの果樹や樹木が少ない場合、ナシでも同様の被害が発生することもあるが、この時期はナシ園での被害は比較的少ない。

7月以降になると、次の世代以降の幼虫がナシなどの果実内に食入、加害するため、被害が大きくなる。また、世代を重ねるごとに密度が高まる傾向にあるため、収穫の遅い品種でより被害が大きくなりやすい。

<防除対策>

- (1) 表を参考に薬剤防除する。ナシの果実への産卵や幼虫による食害を防ぐため、7月頃からの薬剤防除が特に重要である。ただし、収穫期の薬剤散布は、収穫前日数に注意する。
- (2) 被害果や芯折れなどを見つけた場合、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) ウメ、モモ等の被害にも注意する。
- (4) 冬季に粗皮削りを実施し、越冬場所を減らす。

表 ナシにおけるシンクイムシ類の防除（6月下旬から冬季） ※1

時期 ※2	IRAC コード ※3	薬剤名または防除方法	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数 ※4
6月下旬	1 A	オリオン水和剤40	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内
7月上旬	3 A	テルスターフロアブル	3,000倍	収穫前日まで	2回以内
7月中旬～下旬	28	サムコルフロアブル10	5,000倍	収穫前日まで	3回以内
8月上旬		バンド誘殺開始 ※5			
8月中旬	3 A	ロディー水和剤	1,000倍	収穫前日まで	2回以内
10月以降		バンドの処分 ※5			
1月～2月		粗皮削り			

※1 表の内容は、『令和6年版農作物病害虫雑草防除指針(千葉県)(幸水・豊水・その他赤ナシ)』から、シンクイムシ類が対象となる部分を抜粋したものである。

※2 時期の欄の記載は目安であるが、参考にして適期防除に努める。

※3 IRACコードとは、殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※4 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※5 バンド誘殺とは、枝幹部に布などを巻き付けて(バンド巻き)、冬季に越冬のために集まった害虫をバンドごと処分する方法である。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

Ⅲ 参考資料

○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・サトイモ・スイカ：6月上旬、果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	いもち病	葉いもち発病度	0.00	0.01	0.00	
	ばか苗病	発病株率（％）	0.06	0.07	0.06	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネミズゾウムシ	被害度	10.94	8.46	8.73	
	イネゾウムシ	被害度	2.09	1.63	1.77	
	イネドロオイムシ	被害度	5.69	2.14	2.16	
	スクミリンゴガイ	被害株率（％）	5.03	1.53	2.57	
		1㎡当たり個体数	0.44	0.28	0.42	
		発生ほ場率（％）	20.00	14.62	20.00	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.06	0.14	0.00	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫数	0.01	0.01	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.14	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.99	0.54	1.01	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.04	0.01	0.07	
サツマイモ (印旛、香取)	立枯病	発病株率（％）	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率（％）	0.20	0.40	0.00	
スイカ (山武、印旛)	つる枯病	発病葉率（％）	0.40	0.24	0.60	
	うどんこ病	発病葉率（％）	7.20	3.24	3.20	
		発病株率（％）	14.80	5.40	8.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	4.60	5.48	4.80	
ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	5.00	4.86	2.80		
サトイモ (山武、印旛、君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	30.40	33.17	37.33	
		成幼虫寄生程度	8.33	8.89	9.60	
	ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	16.53	10.45	5.87	
		成虫寄生程度	7.40	3.31	1.60	
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	0.00	0.00	0.00		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率（％）	1.06	1.02	0.29	
	赤星病	発病葉率（％）	0.03	0.10	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率（％）	0.03	0.06	0.06	
	ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	0.00	0.01	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	0.24	3.66	0.62	
	カメムシ類	被害果率（％）	0.00	0.01	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	1.00	0.15	0.40	
	かいよう病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率（％）	9.80	5.04	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	2.60	1.00	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率（％）	0.80	0.62	0.60	
	カメムシ類	払落虫数	0.00	2.12	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率（％）	0.50	2.28	5.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.10	0.25	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.40	0.00	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考 *
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	25.8	27.5	5.2	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	0.6	0.1	0.0	
	フタオビコヤガ	〃	0.0	0.2	1.0	
	ニカメイガ	〃	16.1	1.9	11.3	
	イネクロカメムシ	〃	17.1	27.5	59.4	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	0.6	1.3	2.3	
	アカスジカスミカメ	〃	15.8	18.5	17.1	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	1.0	1.0	1.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.0	1.2	1.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	3.9	15.1	0.0	
	カメムシ類	〃	5.8	17.2	1.9	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.35	0.39	0.21	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.18	0.07	0.02	
	コナガ	海匝	3.89	6.20	3.64	
	ハスモンヨトウ	県内全域	2.88	2.03	0.61	
	シロイチモジヨトウ	東葛、安房、君津	0.63	0.12	0.16	
	オオタバコガ	県内全域	2.05	0.76	1.78	
	タバコガ	県内全域	0.25	0.15	0.17	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.65	0.62	0.92	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.65	0.62	0.92	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.67	0.77	0.67	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.21	1.39	1.27	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.88	2.16	1.94	
	チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	6.79	3.69	
ツヤアオカメムシ		〃	1.70	0.37	0.04	
クサギカメムシ		〃	0.69	0.34	0.06	
カメムシ類		〃	9.18	4.41	1.06	
マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）		〃	1.35	0.75	0.47	

* 種類別の単位の違いに注意。月は30日当たりに補正。

○気象予報

6月13日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

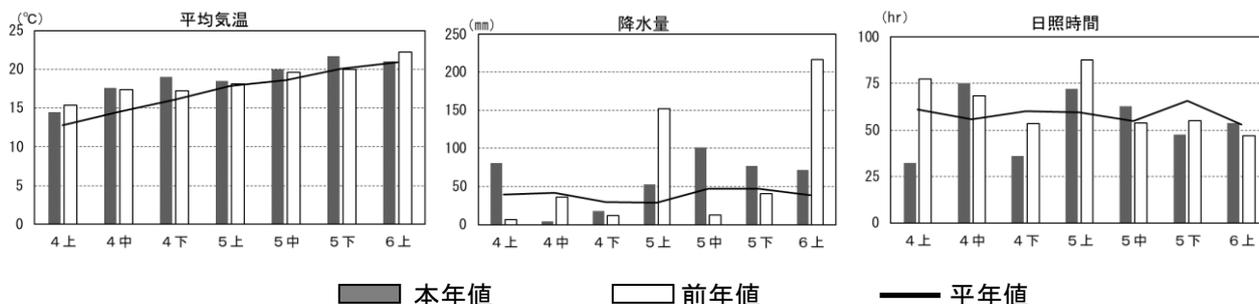
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(6月15日～7月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	23.7	21.7	23.3
降水量(mm)	163.5	169.8	226.6
日照時間(hr)	127.1	136.2	134.9



過去2か月の気象概況 (アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

6～8月は農薬危害防止月間です。

農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 無登録農薬の使用はできません。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は7月17日です。

なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

